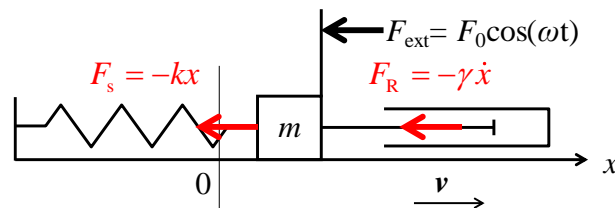


第 14 回講義

- ばねとおもりの強制振動：
運動方程式は

$$\frac{d^2x}{dt^2} + 2\kappa \frac{dx}{dt} + \omega_0^2 x = F_0 \cos(\omega t) \quad (1)$$



対応する斉次形の一般解は $x = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$ (C_1, C_2 は定数) だが、ほとんどの場合これはどうでもよい。

非斉次形の特殊解は未定係数法を使って

$$x(t) = \frac{F_0/m}{4\kappa^2\omega^2 + (\omega_0^2 - \omega^2)^2} \{(\omega_0^2 - \omega^2) \cos(\omega t) + 2\kappa\omega \sin(\omega t)\} \quad (2)$$

これが強制振動の定常解。これは、三角関数の公式を使い、

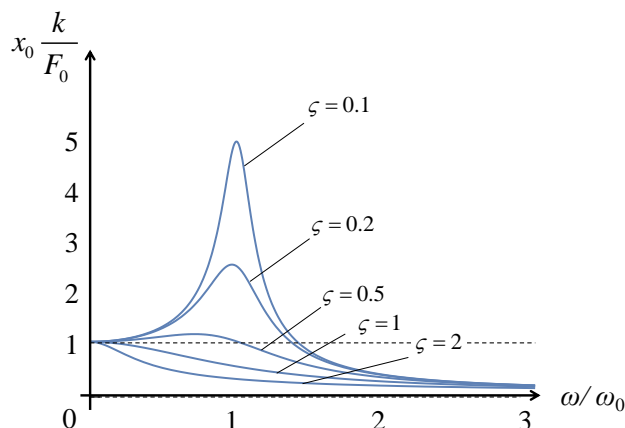
$$x(t) = \frac{F_0/m}{\sqrt{4\kappa^2\omega^2 + (\omega_0^2 - \omega^2)^2}} \cos\left(\omega t - \tan^{-1} \frac{2\kappa\omega}{\omega_0^2 - \omega^2}\right) \quad (3)$$

と書き直せる。

- 強制振動の振幅： $\zeta = \frac{\kappa}{\omega_0}$ を減衰比と定義。

$\zeta \ll 1$ の領域で、 $\omega = \omega_0$ になると、急に振幅が大きくなる。これを共振現象と呼び、日常的にもよく見られる。

- 振動の位相： $\omega \ll \omega_0$ のとき強制力が振動と同じ位相で、振動は強制力に従っている。一方、 $\omega \gg \omega_0$ のときは、振動は強制力とほぼ逆の位相で振動している。共振状態のときの位相差が $\pi/2$ で、このとき、外力からおもりに最も効率よくエネルギーが流れる。



- 単振動の微分方程式 $m \frac{d^2x}{dt^2} + kx = 0$ に非斉次項 $F_0 \cos(\omega t)$ が加わった問題の解き方：

慌てず、非斉次線形微分方程式の解法で解く。

Step1: 「対応する斉次形微分方程式」を解く。解は言うまでもなく

$$x = A \cos(\omega_0 t) + B \sin(\omega_0 t)$$

Step2: 特殊解を一つ見つける。 $x = C_1 \cos(\omega t) + C_2 \sin(\omega t)$ を試す。

※ここで求めるべき定数を一般解の定数 A, B と混同しないよう注意。

$$\{C_1 \cos(\omega t) + C_2 \sin(\omega t)\}'' + \omega_0^2 \{C_1 \cos(\omega t) + C_2 \sin(\omega t)\} = \frac{F_0}{m} \cos(\omega t)$$

解けば、 $C_1 = \frac{F_0}{m(\omega_0^2 - \omega^2)}$, $C_2 = 0$ を得る。

Step3: 対応する斉次系の一般解と特殊解を足す。

$$x = A \cos(\omega_0 t) + B \sin(\omega_0 t) + \frac{F_0}{m(\omega_0^2 - \omega^2)} \cos(\omega t) \quad (A, B \text{ は任意定数}).$$